

# 国民体育大会の概要

スポーツ課

## 1 主催

(公財) 日本体育協会 文部科学省 開催地都道府県

## 2 目的

大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするを目的とする。

## 3 開催時期及び開催期間

- (1) 冬季大会：1月～2月、5日間以内
- (2) 本大会：9月～10月、11日間以内

## 4 実施方式

- (1) 冬季大会と本大会の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催される。
- (2) 上記両大会で実施した全正式競技の男女総合成績1位に“天皇杯”、女子総合成績1位に“皇后杯”が授与される。

## 5 実施競技（競技数）

区 分			第70回(2015年)	第74回(2019年)	第78回(2023年)
			第73回(2018年)	第77回(2022年)	第81回(2026年)
本 大 会	正式競技	毎年実施	34	36	36
		隔年実施	4	2	2
		開催地選択	隔年実施対象外から 1競技を選択	休止	休止
		計	38	38	38
	公開競技		4	5	7
	デモンストレーションスポーツ		開催都道府県が希望する競技		
	特別競技		1	1	1
冬 季 大 会	正式競技	毎年実施	3	3	3
	デモンストレーションスポーツ		開催都道府県が希望する競技		

※ 第78回～81回大会の実施競技は別紙のとおり(第82回大会以降の開催競技については、今後(公財)日本体育協会にて検討)なお、実施競技は4年ごとに見直すこととされている。

## 6 大会規模等（出典：日体協発行「Sports Japan」による。）

- ・国体参加選手約2万人
- ・観客動員約60万～70万人
- ・大会開催経費約100億～150億円
- ・経済効果約500億～600億円

[第72回(2017年)国体への長野県選手団派遣人数：冬季大会(長野県)250人、本大会(愛媛県)431人]

## 7 その他

- (1) 戦後の混乱期の中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えようと、昭和21年(1946年)、京都を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催された。
- (2) 各都道府県持ち回り方式で毎年開催され、昭和36(1961)年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事の一つとして行われている。(※平成23年(2011)年からは、スポーツ基本法第26条に定められている。)

なお、本県では、昭和53年(1978年)に第33回大会を「やまびこ国体」として開催し、昭和63年(1988年)の第43回京都大会から、二巡目開催となる。

## 第78回大会（2023年）～第81回大会（2026年）における実施競技について

### 1 本大会

#### (1) 正式競技 : 計38競技

##### ア 毎年実施競技 : 計36競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

##### イ 隔年実施競技 : 計2競技 (※ 下記種目のうち、1種目を実施)

ボクシング、クレール射撃

※ 「正式競技」の実施区分のうち「開催地選択競技」については、休止とする。

#### (2) 公開競技 : 計7競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック

#### (3) デモンストレーションスポーツ

上記「(1)正式競技」及び「(2)公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日体協加盟（準加盟）団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

例：ウォーキング、ソフトバレーボール、スポーツ吹矢 等

#### (4) 特別競技 : 計1競技

高等学校野球

### 2 冬季大会

#### (1) 正式競技

##### ア 毎年実施競技 : 計3競技

スキー、スケート、アイスホッケー

# 全国障害者スポーツ大会の概要

障がい者支援課

## 1 主 催

(公財)日本障がい者スポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県、市町村、その他関係団体（開催地主催者代表は、都道府県）

## 2 目 的

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与する。

## 3 開催期間及び開催地

国民体育大会本大会の直後を原則として、当該都道府県において3日間で開催する。  
(例年、概ね10月中)

## 4 参加資格

13歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

## 5 大会規模

約5,500人（選手 約3,500人、役員 約2,000人）

## 6 実施競技

全国障害者スポーツ大会競技規則による



### 【第17回 愛媛大会 (H29. 10. 28~10. 30) の実施競技】

- 個人競技（6競技）：陸上競技（身・知）、水泳（身・知）、アーチェリー（身）、卓球（身・知）[サウンドテーブルテニス（身）を含む]、フライングディスク（身・知）、ボウリング（知）
- 団体競技（7競技）：バスケットボール（知）、車椅子バスケットボール（身）、ソフトボール（知）、グラウンドソフトボール（身）、サッカー（知）、フットベースボール（知）、バレーボール（身・知・精）
- オープン競技（3競技）：肢体障がい者ボウリング（身）、ブラインドテニス（身）、精神障がい者フットサル（精）

※今後導入が予定されている競技：H31～卓球（精）、H33～ボッチャ（身）

（注：身－身体障がい者、知－知的障がい者、精－精神障がい者）

## 7 長野県選手団派遣実績

(単位：人)

開催年（開催地）	H25（東京都）	H26（長崎県）	H27（和歌山県）	H28（岩手県）	H29（愛媛県）	
個人競技	身体	18	19	17	18	19
	知的	22	20	18	20	19
	計	40	39	35	38	38
団体競技	12	10	12	6	0	
合 計	52	49	47	44	38	

※ 個人競技は、開催地実行委員会が都道府県ごとの参加枠を決定。選考会により選考し、派遣選手を決定。  
団体競技は、地区ブロック予選会を勝ち抜いたチームを派遣。開催県は、1チーム参加。

開催県からは、選手約290人（個人競技：約140人、団体競技：全7競技、約150人）が参加します。

2027年長野大会の成功には、障がい者スポーツの普及、競技力向上に県・市町村・競技団体等が連携して取り組んでいくことが必要です。

## 2027 年国民体育大会(冬季大会及び本大会)の 長野県開催の内々定について

スポーツ課

平成 29 年5月 22 日に(公財)日本体育協会会長等に対し開催要望書を提出した 2027 年の第 82 回国民体育大会について、7月 18 日に行われた同協会理事会で、開催申請書提出順序が了解(本県開催が内々定)されました。

### 1 これまでの主な経緯

年 月 日	内 容	
平成 28 年6月 ～ 平成 29 年2月	市長会、町村会、経済四団体等からの大会招致要望	
平成 29 年	3 月 2 日	2月県議会で大会の招致を決議
	3 月 10 日	教育委員会定例会で大会の招致を決定
	3 月 24 日	部局長会議で大会招致を決定
	5 月 22 日	<b>【開催要望書の提出】</b> ○ 文部科学大臣に対して、県知事、県教育委員会、長野県体育協会会長、長野県障がい者スポーツ協会理事長の連名で「開催要望書」を提出 ○ 日本体育協会会長に対して、県知事、県教育委員会、長野県体育協会会長の連名で「開催要望書」を提出
	7 月 18 日	<b>【本県開催の内々定】</b> 日本体育協会理事会で開催申請書提出順序の了解

### 2 今後の主な予定

年	内 容
平成 29 年 (2017 年)	県・市町村・競技団体等で構成する準備委員会を設置し、大会基本方針の策定、競技会場の選定方法の決定など開催に向けた準備を進める。
2020 年 (概ね7年前)	日本体育協会による第 82 回～85 回大会の実施競技の決定
2021 年 (概ね6年前)	中央競技団体による会場地市町村の視察
2022 年 (概ね5年前)	「開催申請書」を文部科学大臣及び日本体育協会会長に対して提出 ⇒開催地の内定
2024 年 (概ね3年前)	日本体育協会による準備状況等の調査(開催決定書の交付) ⇒開催地の決定 ⇒準備委員会を実行委員会に移行
2027 年 (開催年)	第 82 回国民体育大会(冬季大会及び本大会)及び第 27 回全国障害者スポーツ大会の開催

#### (参考)

全国障害者スポーツ大会は、同大会の開催基準要綱により「国民体育大会の直後に当該都道府県において開催する」と定められており、2027 年には国民体育大会に引き続き、本県で第 27 回全国障害者スポーツ大会が開催される予定です。

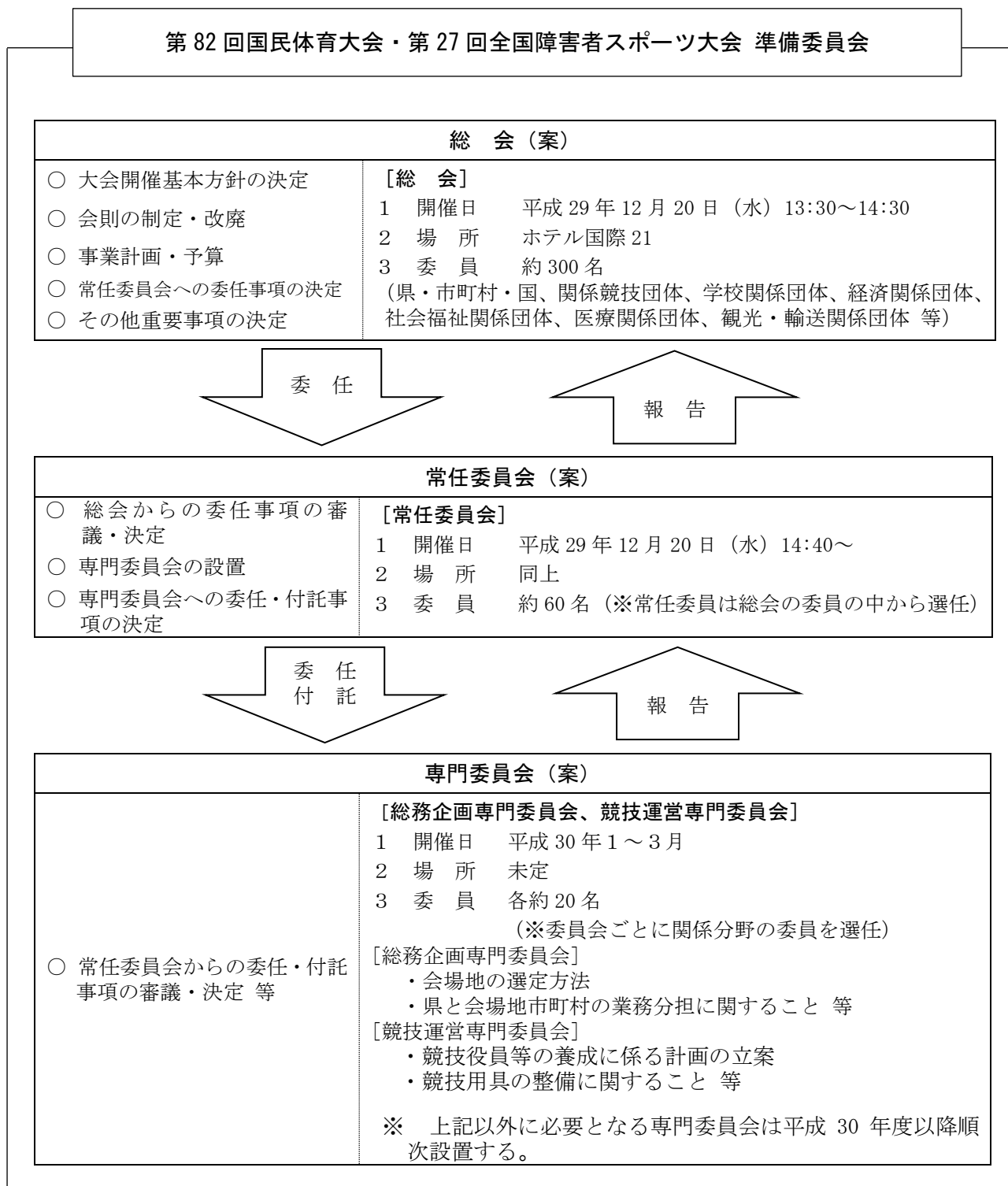
# 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催準備委員会について(案)

スポーツ課

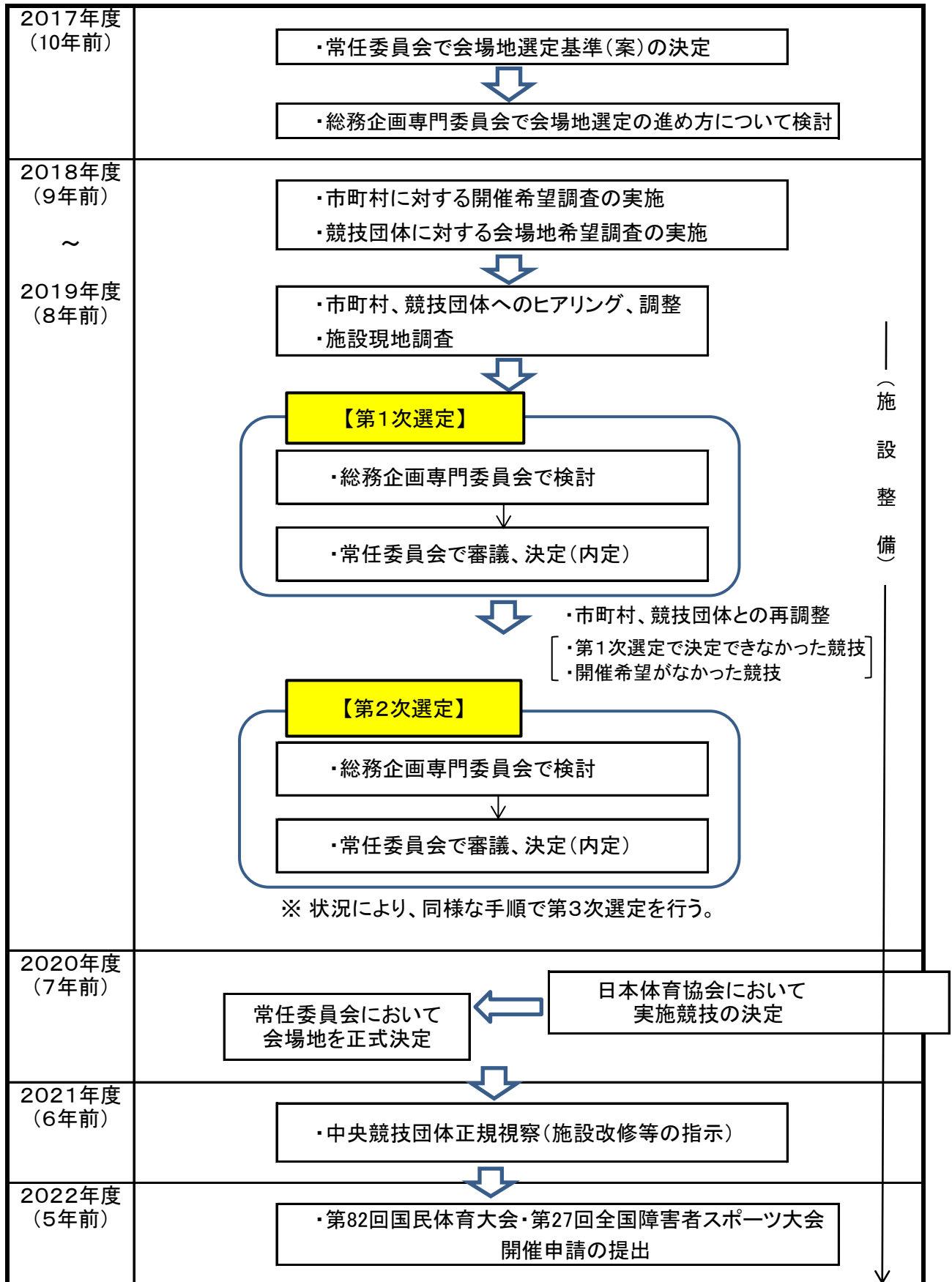
## 1 目的

2027 年に開催する国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会に向けて、市町村や関係競技団体など、関係団体による準備委員会を設立し、大会開催基本方針の策定や競技会場の選定方法の検討など開催に向けた具体的な準備作業に着手する。

## 2 組織



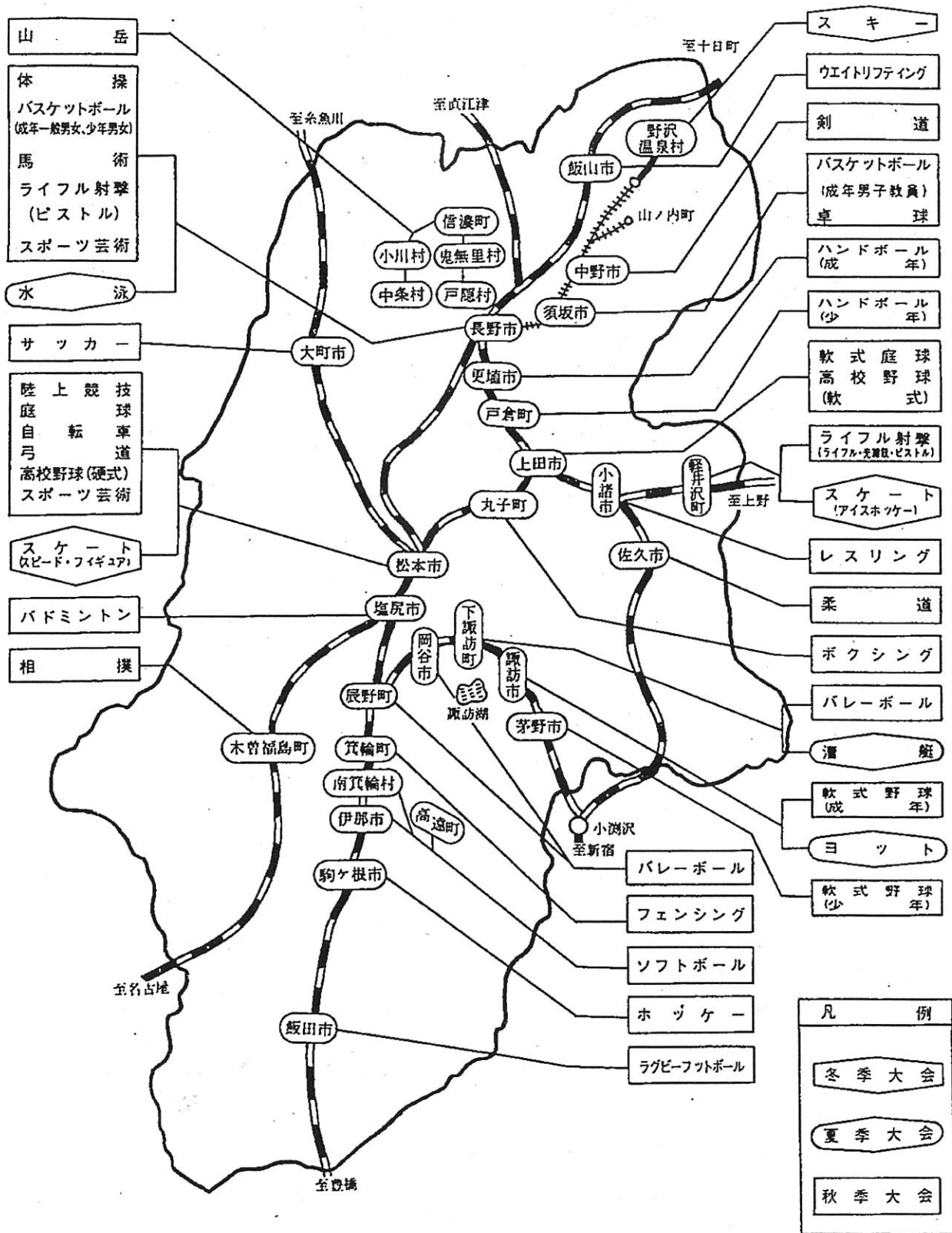
## 競技会場地選定手続きの概要(案)



(施設整備)

※ 全国障害者スポーツ大会についても、原則として、上記手順に準じて実施を検討している。

# 昭和53年(1978年)やまびこ国体における競技会場地



## 国民体育大会の施設基準について

(参考)

第78回（2023年）～第81回（2026年）	
実施競技名	競技に必要なコート等の数
陸上競技	1（1種公認）
水泳	競泳1、飛込1、シンクロ1、水球1
サッカー	原則天然芝7以上
テニス	20（2会場の場合24）
ボート	水路1（1000m×5コース）、艇庫1
ホッケー	2（人工芝）
ボクシング	2面設置できる体育館1
バレーボール	屋内コート8
体操	器具を設置できる体育館1
バスケットボール	屋内コート10
レスリング	4面設置できる体育館1
セーリング	適当と認める水域1（2海面）
ウエイトリフティング	1または2面設置できる体育館1
ハンドボール	屋内競技場6
自転車	競技場1、ロードレースコース1
ソフトテニス	16
卓球	12面設置できる体育館1

やまびこ国体（第33回・S53）	
実施競技名	施設名
陸上競技	県松本運動公園陸上競技場
水泳	長野市営総合市民プール（競泳）
	〃（飛込）
	長野東高校水泳プール（水球）
サッカー	大町市運動公園陸上競技場
	大町市運動公園サッカー場
	仁科台中学校グラウンド
	大町第一中学校グラウンド
	大町高校グラウンド
庭球	県営総合運動場庭球競技場（松本市）
漕艇	下諏訪町漕艇場
ホッケー	駒ヶ根市総合運動場
ボクシング	丸子町営総合体育館
バレーボール	岡谷市民総合体育館
	岡谷東高校体育館
	天竜工業(株)体育館
	辰野町民体育館
	下諏訪体育館
体操	長野市民体育館
バスケットボール	長野市営総合体育館
	篠ノ井高校体育館
	長野商業高校体育館
	長野東高校体育館
	三菱電機(株)長野工場体育館（長野市）
富士通(株)長野総合グラウンド体育館（須坂市）	
レスリング	小諸市総合体育館
ヨット	諏訪湖ヨットハーバー
ウエイトリフティング	飯山市民体育館
	飯山第二中学校体育館
ハンドボール	屋代高校グラウンド
	更埴市民体育館
	戸倉野外趣味活動センターグラウンド
	戸倉町総合体育館
自転車	松本自転車競技場
	アルプスロードレースコース
軟式庭球	上田市営庭球コート
卓球	須坂市市民体育館



(参考)

第78回（2023年）～第81回（2026年）	
実施競技名	競技に必要なコート等の数
軟式野球	5 (2会場の場合6)
相撲	1
馬術	競技場2、 厩舎227馬房、 隔離厩舎2馬房
フェンシング	8面設置できる体育館1
柔道	3面設置できる体育館1
ソフト ボール	8
バドミントン	8面設置できる体育館1
弓道	近的1、遠的1
ライフル 射撃	エアライフル1、スモールボアライフル1
	ピストル1
	光線銃1
剣道	2面設置できる体育館
ラグビー フットボール	3（うち芝生2）

(追加競技)

スポーツクライミング	リード2、ボルダリング2
カヌー	スプリント1、スラローム1、ワイルドウォーター1、 艇庫1
アーチェリー	1
空手道	4面設置できる体育館1
なぎなた	2面設置できる体育館1
ボウリング	1会場：34以上 2会場：32以下
ゴルフ	54ホール（3コース）
トライアスロン	スイム1.5km、バイク40km、ラン10km
銃剣道	2面設置できる体育館1
クレール射撃	トラップ1、スキート1

正式競技 計 38競技

やまびこ国体（第33回・S53）		
実施競技名	施設名	
軟式野球	諏訪湖スポーツセンター野球場	
	諏訪市営運動広場	
	諏訪実業高校グラウンド	
	(株)三協精機野球場	
	茅野市運動公園野球場 茅野市運動公園広場野球場	
相撲	木曽福島町営相撲競技場	
馬術	長野馬術競技場	
フェンシング	箕輪町民体育館 箕輪町民武道館	
	柔道	佐久市総合体育館
ソフト ボール	伊那市営球場	
	県伊那運動公園野球場	
	伊那弥生ヶ丘高校グラウンド	
	伊那勤労者福祉センターグラウンド	
	高遠町営グラウンド 南箕輪村営野球場	
バドミントン	塩尻市立体育館	
弓道	護国神社弓道場（松本市）	
ライフル 射撃	軽井沢国際射撃場 県警察学校射撃場 軽井沢高校体育館	
	剣道	中野市民体育館
	ラグビー フットボール	飯田市総合運動場 飯田女子短期大学グラウンド 飯田長姫高校グラウンド

※ 第82回（2027年）大会以降の開催競技については、今後（公財）日本体育協会にて検討される。  
 ※ 競技会場のほか、練習会場の確保も必要

# 本県のスポーツを取り巻く現状と課題

スポーツ課

## 1 競技力向上関係

### ■近年の国体成績（第67回(2012年)～第72回(2017年)）

・本県のお家芸である冬季競技の活躍により、総合成績である天皇杯順位は10位台を維持しているが、本大会の順位は低迷傾向が続いている。

回	開催地	総合成績				冬季大会				本大会							
		天皇杯		皇后杯		男女総合		女子総合		男女総合		女子総合		成年		少年	
		得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位
72	愛媛	1057.5	18	606.0	19	430.0	1	171.0	1	627.5	45	435.0	39	134.5	44	123.0	43
71	岩手	1041.5	19	623.5	18	339.0	2	171.0	1	702.5	41	452.5	35	180.5	38	152.0	42
70	和歌山	1150.5	14	598.0	16	359.5	2	145.0	2	791.0	33	453.0	28	245.0	27	176.0	37
69	長崎	997.0	20	500.5	22	342.5	2	152.5	2	654.5	41	348.0	43	205.5	32	79.0	47
68	東京	1002.5	17	529.5	16	349.0	2	157.0	2	653.5	42	372.5	39	174.5	35	109.0	44
67	岐阜	1026.0	17	565.0	17	342.0	2	170.0	1	684.0	38	395.0	37	152.0	37	162.0	38

### ■第72回（2017年）国体の季別大会成績

・冬季大会では、男女総合・女子総合が「やまびこ国体」以来39年ぶりに第1位となった。  
 ・一方、本大会では、男女総合45位となり、平成18年以降最低順位となった。

#### 〔冬季大会〕

男女総合（天皇杯）			女子総合（皇后杯）			成年男子			成年女子			少年男子			少年女子		
順位	都道府県	得点	順位	都道府県	得点	順位	都道府県	得点	順位	都道府県	得点	順位	都道府県	得点	順位	都道府県	得点
1	長野	430.0	1	長野	171.0	1	長野	141.0	1	長野	76.0	1	北海道	154.0	1	長野	75.0
2	北海道	420.0	2	北海道	140.0	2	北海道	116.0	2	北海道	47.5	2	長野	108.0	2	北海道	72.5
3	青森	176.0	3	岩手	85.0	3	神奈川	68.0	3	岩手	43.0	3	青森	50.0	3	山形	44.0
4	岩手	175.0	4	福岡	80.0	4	青森	60.0	4	福岡	40.0	4	栃木	49.0	4	兵庫	33.0
5	秋田	170.0	5	山梨	76.0	5	東京	58.0	5	山梨	38.0	5	秋田	46.0	5	東京	25.0

#### 〔本大会〕

1	東京	2535.0	1	東京	1282.0	1	愛媛	704.5	1	愛媛	513.0	1	東京	515.0	1	東京	431.5
2	愛媛	2395.5	2	愛媛	1196.0	2	東京	624.0	2	東京	456.5	2	愛媛	443.0	2	大阪	324.0
3	埼玉	1787.5	3	大阪	985.0	3	福井	433.0	3	埼玉	293.0	3	神奈川	425.0	3	愛知	307.5
4	大阪	1784.0	4	愛知	925.0	4	愛知	371.0	4	福井	289.0	4	埼玉	402.0	4	愛媛	302.0
5	神奈川	1674.5	5	埼玉	915.5	5	埼玉	347.0	5	兵庫	273.5	5	大阪	379.5	5	千葉	258.0
34	滋賀	762.5	34	佐賀	452.0	34	茨城	117.0	34	山形	80.5	34	北海道	117.5	34	長野	61.0
35	富山	754.0	35	香川	444.5	34	滋賀	117.0	35	新潟	75.0	35	福島	116.0	34	鳥取	61.0
36	山形	746.5	36	栃木	441.0	36	熊本	104.5	36	栃木	72.0	36	鹿児島	115.0	36	秋田	57.0
37	新潟	725.0	37	大分	439.0	37	山梨	100.0	37	山梨	65.5	37	群馬	107.0	37	栃木	49.0
38	鳥取	721.5	38	宮城	438.5	37	佐賀	100.0	38	長野	64.0	38	青森	105.5	38	高知	46.5
39	福島	712.0	39	長野	435.0	39	山口	90.0	39	富山	53.0	39	佐賀	98.5	39	熊本	46.0
40	佐賀	710.5	40	沖縄	431.5	40	沖縄	88.5	40	島根	50.0	40	秋田	96.5	40	佐賀	45.0
41	山梨	690.5	41	滋賀	422.0	41	新潟	73.5	41	宮崎	49.0	41	和歌山	89.0	41	徳島	42.5
42	宮崎	672.0	42	福島	421.0	42	長野	70.5	42	沖縄	47.0	42	宮崎	87.5	42	山梨	37.0
43	青森	651.5	43	山梨	412.5	43	山形	62.5	43	徳島	44.0	43	富山	86.0	43	宮城	29.5
44	沖縄	650.0	44	徳島	406.5	44	島根	61.0	44	大分	28.0	44	沖縄	80.0	44	宮崎	24.0
45	長野	627.5	45	宮崎	393.0	45	鳥取	60.5	45	香川	26.5	45	徳島	70.5	45	青森	15.0
46	徳島	579.5	46	高知	372.5	46	高知	54.0	46	高知	26.0	46	長野	62.0	46	福島	10.0
47	高知	532.5	47	青森	339.5	47	徳島	52.5	47	青森	14.5	47	高知	46.0	47	滋賀	6.0

#### 〔総合成績〕

18	長野	1057.5	19	長野	606.0	17	長野	211.5	20	長野	140.0	27	長野	170.0	16	長野	136.0
----	----	--------	----	----	-------	----	----	-------	----	----	-------	----	----	-------	----	----	-------

■第72回(2017年) 国民体育大会 競技別得点内訳

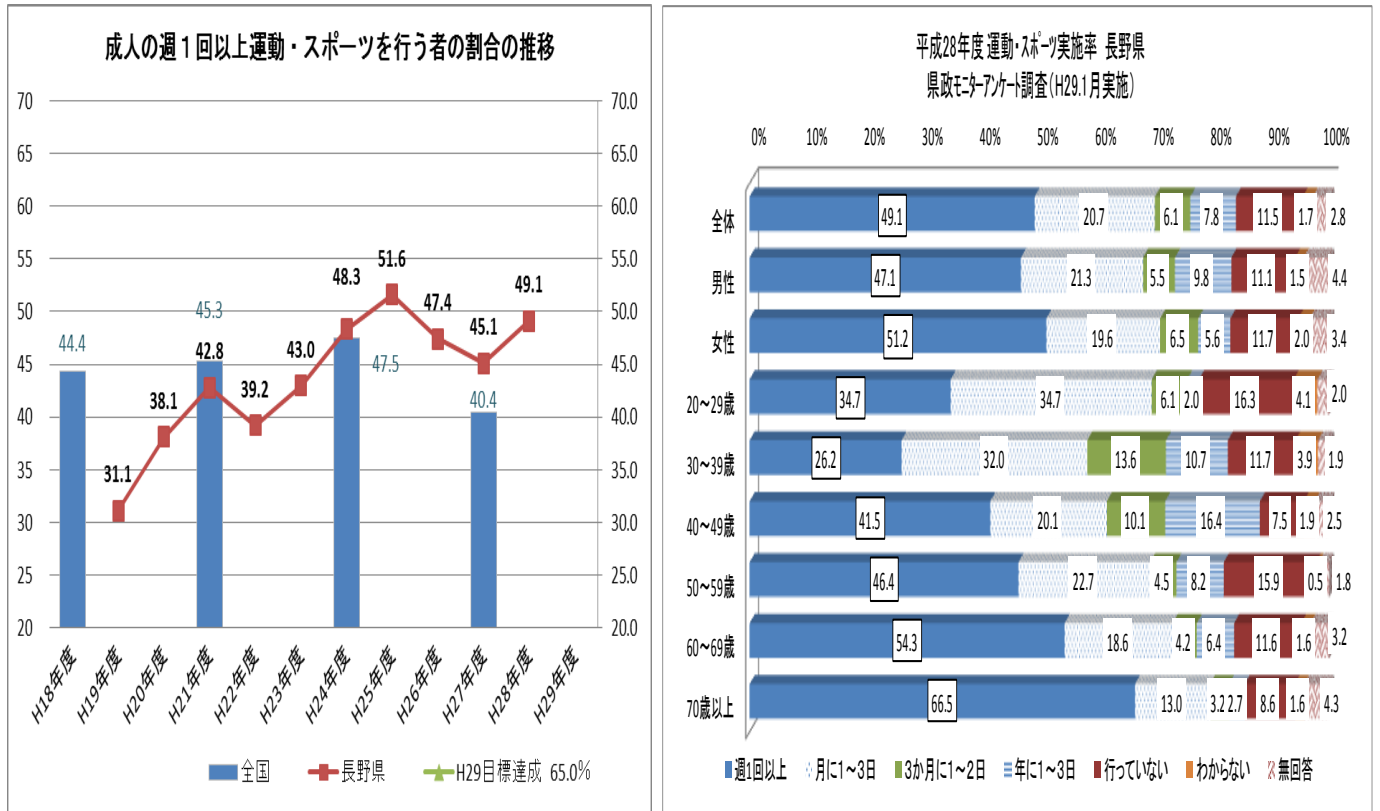
季別	男 女 総 合 ( 天 皇 杯 )			女 子 総 合 ( 皇 后 杯 )		
	競 技 名	得 点	前 回 大 会	競 技 名	得 点	前 回 大 会
冬 季 大 会	スケート	265.0	195.0	スケート	114.0	114.0
	アイスホッケー	15.0	30.0			
	スキー	120.0	84.0	スキー	37.0	37.0
	参 加 得 点	30.0	30.0	参 加 得 点	20.0	20.0
	競 技 得 点	400.0	309.0	競 技 得 点	151.0	151.0
	小 計	430.0	339.0	小 計	171.0	171.0
	冬 季 大 会 終 了 時 順 位	1	2	冬 季 大 会 終 了 時 順 位	1	1
本 大 会	陸上競技	55.0	66.5	陸上競技	31.0	40.5
	水泳	34.0	35.0	水泳	23.0	31.0
	サッカー			サッカー		
	テニス		18.0	テニス		
	ボート	38.0	30.0	ボート	17.0	
	ホッケー			ホッケー		
	ボクシング					
	バレーボール		30.0	バレーボール		
	体操	20.0	20.0	体操	20.0	20.0
	バスケットボール			バスケットボール		
	レスリング	5.0	23.5	レスリング		
	セーリング			セーリング		
	ウェイトリフティング	8.0		ウェイトリフティング※		
	ハンドボール			ハンドボール		
	自転車		7.0	(自転車)		7.0
	ソフトテニス			ソフトテニス		
	卓球	21.0	7.5	卓球		
	軟式野球					
	相撲					
	馬術	33.0	35.5	馬術	8.0	19.0
	フェンシング	3.0		フェンシング		
	柔道			柔道		
	ソフトボール			ソフトボール		
	バドミントン			バドミントン		
	弓道	12.0	24.0	弓道		
	ライフル射撃	15.0	15.0	ライフル射撃	15.0	15.0
	剣道			剣道		
	ラグビーフットボール			ラグビーフットボール		
	山岳			山岳		
	カヌー		7.0	カヌー		
	アーチェリー			アーチェリー		
	空手道	13.5	7.5	空手道	11.0	
銃剣道						
クレー射撃		6.0				
なぎなた			なぎなた			
ボウリング			ボウリング			
ゴルフ			ゴルフ			
(トライアスロン)			(トライアスロン)			
参 加 得 点	370.0	370.0	参 加 得 点	310.0	320.0	
競 技 得 点	257.5	332.5	競 技 得 点	125.0	132.5	
小 計	627.5	702.5	小 計	435.0	452.5	
順 位	45	41	順 位	39	35	
総 合 成 績	参 加 点	400.0	400.0	参 加 点	330.0	340.0
	競 技 得 点	657.5	641.5	競 技 得 点	276.0	283.5
	合 計 得 点	1057.5	1041.5	合 計 得 点	606.0	623.5
	順 位	18	19	順 位	19	18

■県が取り組んでいる主な競技力向上関係事業

- ・国体種目強化事業 (国体等の全国規模大会への育成強化)
- ・オリンピック育成支援 (東京オリンピック等の国際大会への育成強化)
- ・マルチサポート (国体等へのドクター等のサポートチーム派遣)
- ・ジュニア競技力向上 (重点強化校やクラブの指定)
- ・SWANプロジェクト (冬季競技のジュニア層の発掘育成)
- ・アスリート就職支援 (県内企業等に対するアスリートの就職支援)

## 2 生涯スポーツ関係

### ■運動・スポーツ実施率（県政モニターアンケート調査より）



- ・週1回以上運動・スポーツを行う者の割合は、H28は前年を4ポイント上回る49.1%となった。
- ・70歳以上の実施率は高い。また、20~30歳代の実施率は他の世代より低い。

### ■総合型地域スポーツクラブの設立状況

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
クラブ数	31	33	49	56	62	65	64	65	68
設立済市町村数	23	25	37	44	47	48	47	47	48
会員数(人)	9,990	11,217	13,636	15,014	17,050	18,537	18,591	19,852	20,080

### ■スポーツ推進委員

- ・スポーツ基本法に基づき市町村教育委員会が委嘱。1,078名（77市町村、H29.5現在）。
- ・市町村におけるスポーツ推進のための事業企画、調整、指導助言等のコーディネート役。

### ■県が取り組んでいる主な生涯スポーツ支援事業

#### 総合型地域スポーツクラブの活動支援

- ・総合型クラブ指導者派遣事業
- ・アシスタントマネージャー養成講習会
- ・総合型クラブ連絡協議会の事務局

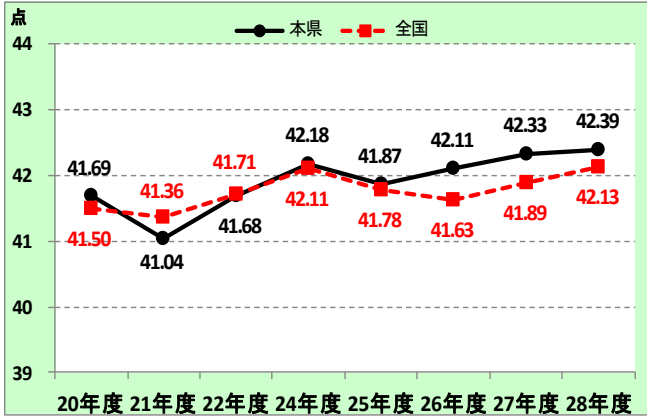
#### スポーツ指導者の活動支援

- ・スポーツ指導者向け研修事業
- ・スポーツ推進委員協議会の事務局

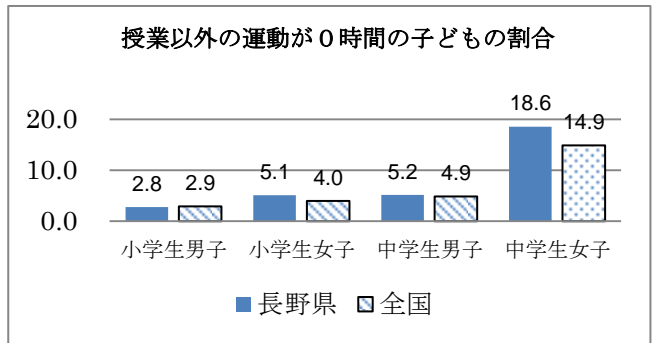
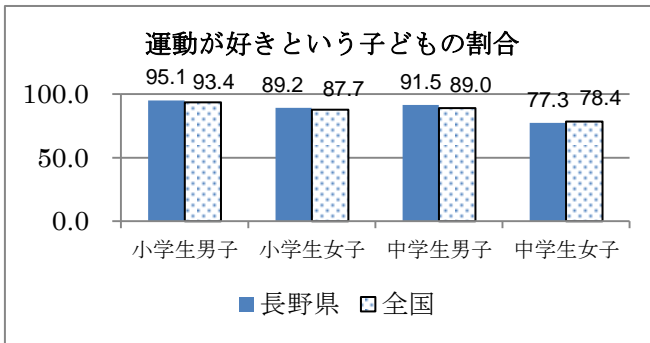
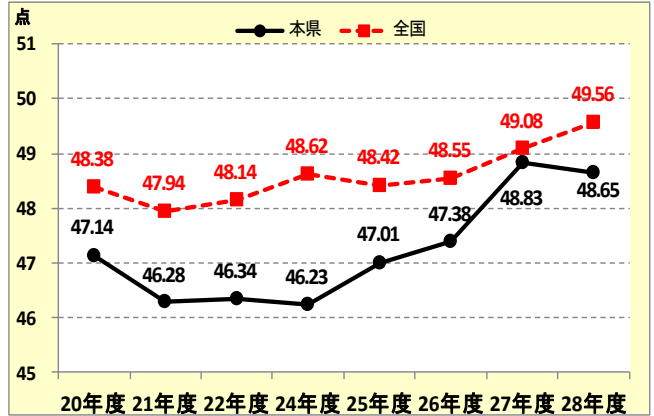
### 3 児童生徒の運動・スポーツの現状

#### ■全国体力・運動能力調査（体力合計点）の変遷

【中学校男子】

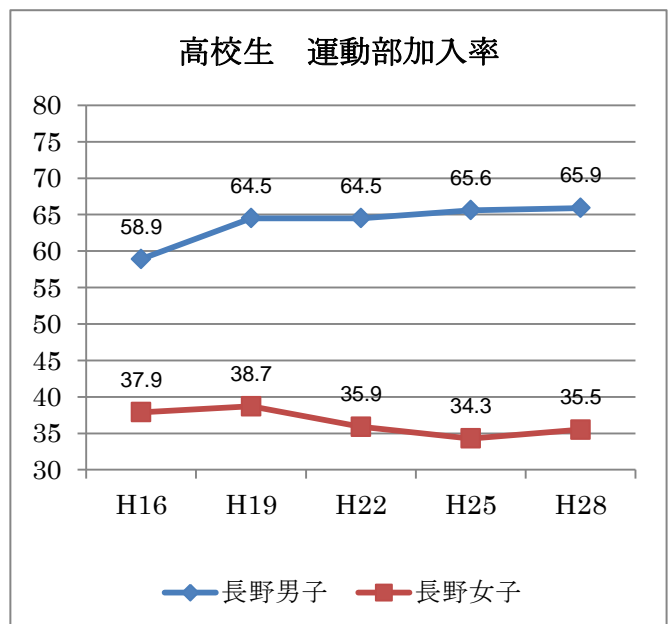
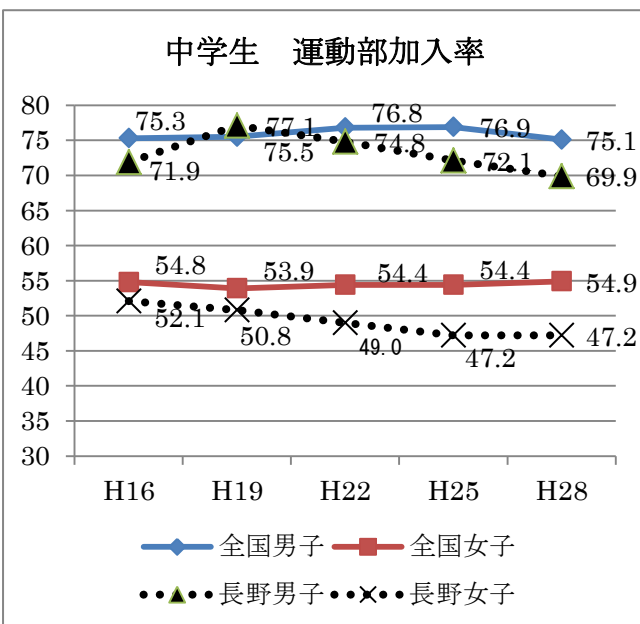


【中学校女子】



- ・中学生の体力テストの合計得点は、男女ともに右肩上がりであるが、女子は全国平均を下回っている。
- ・授業以外の運動が0時間（1週間）の子どもの割合は、中学生女子が顕著で、全国平均も上回っている。

#### ■運動部加入率の推移

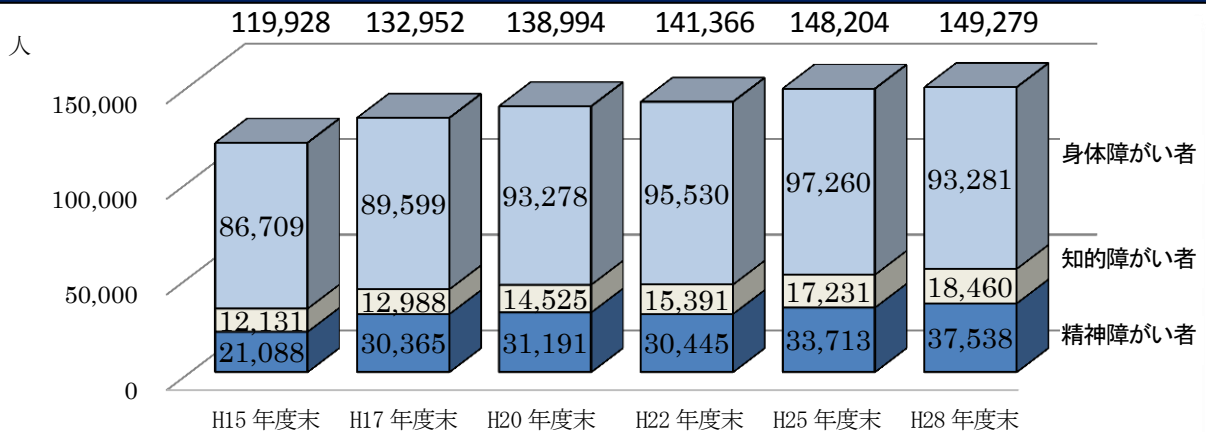


- ・中学生の運動部加入率は、男女ともに減少傾向にあり、また、全国平均を下回っている。
- ・高校生の女子の運動部加入率が低い。高校進学とともに部活をやめてしまう傾向もある。

# 長野県の障がい者スポーツの現状等について

障がい者支援課

## 1 本県の障がい者の状況



## 2 本県の障がい者スポーツの現状と目指す姿

### ■障がい者スポーツの意義

- ◇スポーツ本来の価値や意義（心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、喜び、楽しみなど）に加え、
- ◇リハビリ効果、外出やコミュニケーション機会の増大、社会の障がい理解の促進 など

### 本県の現状

- 冬季パラ（1998年）、S O冬季大会（2005年）の2つの世界大会を開催した全国唯一の地域。
- 現 状
  - ・スポーツに親しむ障がい者が減少傾向
  - ・競技力が低下傾向
  - ・県民の応援の輪が広がっていない

### 国における動き

- スポーツ基本法に、スポーツ振興の観点から初めて障がい者スポーツ分野が位置付け（H23）
- 2020 東京オリ・パラの開催決定（H25）
- 競技性の高い分野が文科省へ移管（H26）
- 文科省外局としてスポーツ庁が発足。障がい者スポーツを含むスポーツ施策の総合的推進（H27）

※スポーツ基本法（前文）

スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利

### 今後の施策展開

- 障がい者スポーツの認知度の向上
  - ・障がい者へのスポーツ意義の発信
  - ・一般スポーツ関係団体等への発信
  - ・社会全体への発信
- 関係団体による主体的な取組（障がい者の参加を前提とした活動）
  - ・障がい者スポーツ関係団体、福祉団体
  - ・一般スポーツ関係団体
  - ・行政、教育機関、関係支援団体等
- ・県障がい者スポーツ推進会議
- ・地域の支援者ネットワーク化（地域コーディネーターの設置）

東京パラムーブメントの活用

### 将来のめざす姿

障がいの状態や適性、目的等に応じて、地域の身近な場所で日常的にスポーツに親しんでいる

・スポーツを通じた豊かで彩のある暮らしの実現

障がいのある者もない者も「同じ地域で暮らす住民」意識浸透

・障がいの有無に関わらず同じ場所で一緒に楽しむスポーツ機会の拡大

スポーツが先導して拓く「共生社会」

2027年国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催を見据えた  
「スポーツの力による元気な長野県づくり」について

○ 両大会が目指す理念について

- ・ スポーツで長野県を元気に
- ・ スポーツが牽引するインクルーシブな社会づくり
- ・ スポーツと地域資源を合わせた魅力発信による信州ファンの増加

○ 大会の競技会場地について

- ・ できるだけ多くの市町村で競技を開催（デモンストレーションスポーツを含む）
- ・ 原則として既存施設を活用

○ 競技力の向上について

- ・ 「おらが町のおらがスポーツ」としての強化
- ・ ジュニア層の発掘育成

○ 県民のスポーツ振興について

- ・ 総合型地域スポーツクラブ
- ・ スポーツ推進委員
- ・ 障がい者スポーツの振興

○ 国体や全スポ開催に向けた思いや提案について（自由意見）